

豆狸の寝言

副会長 三原幸二

最近、人さまの足元を見るのが、くせになっている。

といっても、相手の弱みにつけこんで交渉ごとを有利に進めるくせがついたとか、友人知人の弱みをにぎってよろこんでいるとか、そういうことではありません。

電車に乗ったときに、向かいに座っているかたの、それもお夫人がたの足元を見るのが習慣のようになっているのです。

はじめは、見るともなく、ご婦人がたの足元に目が行っていたのですが、ほとんどの方が、両足をきちんと揃えて、しずかに座っていらっしゃる。

中年かそれ以上の年配のかただけだろうと思っていたのですが、意外にも、二十代三十代の女性にも、両足をきちんと揃えて座っている人が多いのです。

もっとも、足を組んだり、座ったとたんに化粧をはじめ^{ぶしつけ}る不躰な若い女性も少なくありません。

近頃は、そんなあけすけで作法を知らない女性は見慣れてしまいましたが、それだけに、両足をきちんと揃えてしずかに座っている若い女性を見ると、なんともいえぬ^{あんどかん}安堵感をおぼえるのです。

この女性は、たぶん、しつけが行き届いた母親に育てられたのだろう。だから、この女性が母親になっても、自分がしつけられたと同じように自分の子どもを育てるのだろう。そんなことまで想像して、なん



だかホツとするのです。

辞書を見ると、足元を見るという慣用句の〈足元〉には、「人の家柄・経歴。身元。^{うしすじょう}氏素性」の意味があると出ています。

ご本人は気がついていなくても、まさにその足元のしぐさに、そのひとの身元や氏素性、すなわち「人間性」の背景が見えているのです。

そんなことを思いながら、ご婦人がたの足元をながめていると、^{さつぱつ}殺伐とした事件が多い時代に、精神の優位をとり戻せるような、明るい気分になってくるから不思議です。

こういう若い女性がたくさんいるかぎり、我が国の前途は心配ない—ちょっと大げさかもしれませんが、私にはそんなふうさえ思えるのです。

(足元を見る) 2009 年執筆

会報誌 **NewWave** へご寄稿のお願い

「New Wave」誌は、皆さまに身近な会報誌としてご愛読していただくことを目指しています。その第一歩として、読者の皆さまからのご寄稿を数多く掲載することを計画しています。一人で心の中にしまっておくには勿体ないような面白い話や為になる話。それに、地元のグルメ情報などジャンルは問いません。

ご寄稿は、メール・アドレス「zennichi@jeda.or.jp」へ、件名「寄稿」と記入の上、送信して下さいようお願い致します。800～1000文字程度にまとめた文章に写真2～3点を添えていただければ幸いです。

各単組の組員企業ならびに賛助会員企業の皆さまよりのお便りをお待ちしております。

全日本電設資材卸業協同組合連合会・広報委員会